

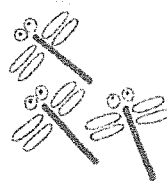
ひまわりからの メッセージ

98号

2019.9.9.

NPO ひまわりの花
西濃園域
発達障がい支援センター
発行人：中野たみ子

本物の美しさ



いつの間にか蟬に代わって庭先にすだく虫の音が秋の訪れを感じさせる頃になりました。一昨日の朝は、秋明菊に黄あけはが、昨日はとんぼと蛸蝶が止まってるのを見つけました。近寄りても飛び立とうとせず、視野狭窄が進む私の目に、しつかりとその姿をとどめさせてくれました。

今日は、何だか池田太郎さんに会いたくなってる。書棚から友人間らとぎを求めマコを取り出して来ました。池田太郎さんは滋賀県の信楽青年寮の寮長として障がいのある人たちを支えてきた方で、若い頃の私の心の師でもありました。(といっても、直接親しく口をきいたことはなく、唯一の接点は私の論文をほめて下さったこと位なのですが……)一九八四年に出版されたその本の中に、知的障がいのある人たちを永源寺の紅葉を見せに連れていったことが書かれています。永源寺といえは

紅葉の美しさで知られています。そんなものを見せに行く位なら、花より団子で何かを食べさせた方が良い。と言った職員もいたそうです。しかし、実際に行ってみると紅葉の美しさに見とれてる姿があって、どうせわからないだろうと思っただけを反省されたとのことでした。

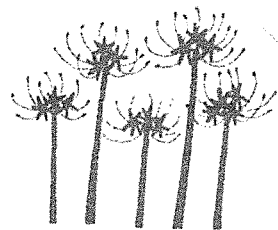
私は以前にも同じような話を聞いたことがありました。とある障がい者施設で有名な狂言師の方が入所者を前に演じられた後で「今日は非常に楽しかった。この皆さんは笑うべき所で笑っていただけで、本当に演目をわかって下さった」と言われたというのです。

知的障がいの人に紅葉の美しさはわからないだろう、狂言がわかるはずがないと思うのは、自分は健常者だと思っっている人たちの思い上がりなのだと思っています。美しいものを観たり、聴いたり、感じたりするのは、理屈ではなく心の眼なのでしよう。

世の中は、耳をふさぎたくないようなニュースばかりです。人はどこまで人らしさを失くしていくのだろうかと思心う。昨今ですが、そんな中で小さな生き物たちが見せてくれる美しさは、ひとときの安らぎを私に与えてくれます。季節の移ろいは目には見えなくても、感じる心さえ失くさなければ、いつだって本物の美を見る事ができるよ。うな気がしています。

検査依頼を

受けて感じることに



私は、毎年、多くの検査依頼を受けます。学校からだったり、教育委員会からだったり、保護者の方からだったり。依頼先は様々ですが、検査について考えさせられることがあって、ペンを取ってみました。

検査は何のためにするのか？

先日、検査依頼を受けたところ、検査を午前中に行い、その日の夕刻に検査返しを……とのこと、私は一瞬耳を疑いました。「他の心理士の方は、その日のうちに数値を出して返されるのですか？」「はい、そういう方もおられます。」とのお返事に、結局は、数値を出せばいいと思われているのだと解釈したのでした。

この時期、来年度の就学先について話し合われる委員会が開かれます。おそらくそのための資料として、知能指数や発達指数が使われるのだらうと思います。しかし、数値だけが一人歩きするのは、いかがなものでしょうか。心理士（？）心理師（？）の中には、分析もなく数値だけの報告があるというのですか

う、世も末だなあと思ってしまった。

検査は一つのツールではありません。検査でその児童、生徒の全てがわかるわけではありません。だからこそ、分析が必要なのだと思います。

保護者の方の中には、「検査結果をもらったのですが、よくわかりません。先生、見て下さい。」と言って持ってこられる方がいらっしやいます。「結果返しするとき、説明はあったでしょうか？」と聞くと、「何か言われましたが、よくわかりませんでした。そして、支援級じゃなくちや無理ですと言われました。」「家でこんなことをしてみたりどうですかとか、学校でこういう配慮があるといいですなとか、アドバイスもいただいたのではないのですか。」「いいえ、特になかったです。」とおっしゃいます。これでは、検査をした意味がありません。ただ、他の方が検査された結果を見て私が言えることといったらう、せいぜい個人内差から予想される本人の困りと、保護者の方のお話から考え出せる手立てについてアドバイスできる程度です。検査場面における子どもたちの息づかいや、集中度や取り組む姿勢などは全くわからないわけですから……。

私は、検査は子どもたちのために行うものだと思います。私のように未熟な心理士は、検査結果を分析する

中で、子どもたちの療育、保育、教育の中に活かせる手
だてや、子育てに役立つものを一つでも二つでも見出し出
いと思おうのです。でも、本当に力不足だと日々実感する
日々なのです。一人の検査を実施するのに要する時間が
一時間半程度として、分析には、同等以上の時間を費し
ています。数値だけを算出して、分類するだけの検査者
にはなるまいと思おうのです。でも、実際には、強みよりも
その子の苦手さに言及してしまいうことが多く、それも自分
力の無さだと思っています。

検査の成績が上がる？



検査は常に改訂がなされています。ウエクスラー検査も
WISC-IIIからWISC-IVに改訂されています。実はすで
にWISC-IVが動き出しています。

検査というものは、学校のテストとは違います。学校のテ
ストは、わからなかったところや間違ったところを見直し、い
ねいに教えて理解させていきます。検査は、あくまで、その
子の現在の習得度や概念形成や、情報処理の力などを
多面的に測っていくものです。検査項目も知って練習させ
たり、間違えた解答に正しい答えを教えたりすることなどもつ
てのほかなのですが、時に「前の検査に比べてこんなに数値が上

かりました」と嬉しそうに報告される人がいて、びっく
りませられたりします。

思いがけいをしていらいやる方もあり、WISC-IVでは、
下位検査の項目や内容に関しては、かなりきびしい制約
があります。内容が流出することによって検査としての
客観性が失われてしまい、次の改訂版を早急に出さ
なくてはならないことになってしまいます。検査の客観
性を保つために、最低限守らなければならない事柄に
ついて、私たちは肝に命じておかなければならないと思
います。

検査用紙がそのまま学校や保護者の手に渡されたり
結果報告に下位検査のグラフまで渡されたりした場
合は、検査をした心理士に一言おっしゃって下さい。「これ
は、検査をした心理士に一言おっしゃって下さい。「これ
は、検査をした心理士に一言おっしゃって下さい。」と。

私たちがこのように気をつけていても、子どもたちの中には
記憶力のすぐれている子がいて、「これ前にもやったことが
あるよ。」と言う子もいます。何年も前のことなのに……と
驚くこともありますから、恐るべしと思ったりします。

どうか、子どもたちに練習させないで下さいね。よろしくお
願いします。知能検査は、視機能検査やTASPと
はちがうことを知っておいてほしいと思います。

療育手帳を予定している児童の検査

療育手帳を取得するための検査は、児童相談所の心理士が行います。いくら心理師や心理士の資格があっても、無効です。私たちが不用意に検査をしてしまうと肝心な時に検査ができず、一年の期間を置かなくてはならないこととなります。

ですから、検査をする前に、療育手帳を考えておられるかどうか、確かめておきましょう。もちろん、他の機関で実施されていないかどうかの確かめも必要です。以前、お会いしたお母さんで、短期間であちこちの病院で検査をしておられ、「あそこでの結果はこれで、こちらの病院ではこれで……」と見せられて、啞然としたことがあります。だが、保護者の方の中には、そういう方もいらっしゃるのです。事前の確かめが要りますね。

検査前の情報について

園や学校において、事前の情報を下さる所と、全く無い所があります。検査場面は、初対面の相手であり、しかも一対一で向き合うわけですから、そのお子さんにとっては日常場面とは異なるわけです。ただいた情報とは全くちがう姿を見せるお子さんもあり、それも又、その子の一面

として考えたいと思います。

又、事前情報のない場合は、検査場面で判断していくこととなります。

いずれにしても、検査をすることによって、何らかの手がかりが得られ、具体的な支援へとつながっていくのではないかと思います。自分の良さも否定し、やる気を失くしている子、表現することが苦手なために、いつも苛立っている子、一斉指示では、理解できない子、見る力が弱くて読み書きに困っている子などに向き合って、困っている要因を探り出して自信につなげていけたらいいなあと思います。検査の場面の表情や行動などの観察を通して見えてくるものも大切にしていきたいのです。

だから、数値だけわかれば良いという考え方には、断固として抗っていきたいのです。子どもたちと向き合っていると、いとおしさが増してくるのは、きっと私か年令を重ねてきたことにもよるのでしょう。

お知らせ

十月三十一日、十一月十一日のセンター

親の会は「奥の細道記念館」で行います。

